

第68回「萩句会報告」 (順不同)

日時 2015年1月12日(月) 14時～17時

兼題「雪達磨」

- 川井素山 ○河豚一片繪皿に残る偲ぶ会  
寒月や笥の湯へと身を寄する  
冬靄<sup>ひび</sup>を篋へ波切る夫婦舟  
出で湯の灯ポストと並ぶ雪達磨
- 保井寶正 ○初春や金婚の年迎えけり  
生きてこそ初日の恵み尊ふとけれ  
便を問ふ癌回廊の冬の朝  
廃校の一人淋しき雪だるま
- 青木英林 ○眉上げて寝ずの番する雪だるま  
囃し唄七種粥で鳥払う  
湯治場の雪見の風呂の夕明り  
初詣まず氏神に義理を立て
- 後藤克彦 ○着ぶくれてなお寒きかな太子道  
短日や名蹟訪ね足早し  
寄鍋や三日続けば箸止まる  
雪達磨迷惑顔の眉の位置
- 佐久間喬 ○雪だるま予報画面を占拠せる  
年玉の硬貨無くして初涙  
年の暮喪中の報に手を合わす  
木枯らしや襟立てくぐる縄のれん
- 永井正孝 ○ラガーらの攻める塊地を鳴らす  
古希迎へ心情綴る年賀状  
<sup>おさがり</sup>御降の雪暖かき祝詞なり  
青天に滂沱流るや雪達磨

丸山酔宵子 ○焚きたての秋田小町に寒玉子  
海鼠腸をすすり気にする尿酸値  
野良犬に吠えられ溶ける雪だるま  
月のこり雲が横切る初御空

長島清山 ○中天に月凍てつきて年あけぬ  
亡き兄と並んで写る雪だるま  
寒椿香りまといて宮詣り  
正月や家族揃いて御神酒かな

菊地崇之 ○消え入るや雄雄しくありし雪達磨  
スキー板抱えて出社しのび足  
駅伝や風切る雄姿我が母校  
去年今年難き心は変らねど

牧野里山 ○雪達磨昔の友を思い出す  
真夜中の星が流れて除夜の鐘  
背を丸め氏神様へ初詣  
雲一つなき青空のしわすかな

佐久間たか子 ○散歩径何処に香る野水仙  
初富士を紅に染め雲渡る  
雪達磨日ごと緩みて我等し  
雪達磨黒白模様の都会っ子

佐伯武雄 ○福詣り朱印集めて万歩超ゆ  
豪雪地作り手おらぬ雪だるま  
ひめ始め思い出だけが夢の中  
成人式樽酒かこむ悪仲間

大山竜海 ○雪だるま路傍に在りて道しるべ  
雪だるま夕暮れの中炭目映え  
レモンの木実りを期して冬囲  
雪催サンタ演じて孫の笑み

山本草風 ○黎明に香華手向けて淑気みつ  
蕪酢<sup>かぶらずし</sup>くさき匂いも馳走かな  
寂しげに過疎の闇の雪達磨  
勇んでも少し身を引く冬の旅

金森純女　　○そこここに雪礫あり日の暮れて  
　　呼び込みのダウンも赤し聖夜来る  
　　初詣ひいふうみいとこはぜはめ  
　　大きさを競う次男の雪だるま

次回 「萩句会」

日時 2015年2月9日（月） 14時～17時

兼題 『日脚伸ぶ』 一句

当季雑詠三句 計四句